民主主義を装う権威主義:
世界化する選挙独裁とその論理

東島雅昌
東京大学社会科学研究所

財務省 ランチミーティング
(2025年5月15日)

本日のメニュー

1. 民主主義とは何か？権威主義とは何か？

2. 現代の民主主義について: 「民主主義の危機と後退」

3. 現代の権威主義について: 「権威主義の巧みな変貌」
『民主主義を装う権威主義: 世界化する選挙独裁とその論理』

民主主義と権威主義をいかにして区別するのか？

民主主義(democracy)って何？権威主義・独裁.
(authoritarianism, autocracy, dictatoship)って何？

民主主義体制: どのように特定するか？

民主主義: 広く市民が政治指導者の決定に影響を有している
権威主義: 政治指導者自身やその取り巻きが決定権を有している

* 選挙の特徴に焦点を当てた方法

1. 競争性

I. 立法府あるいは執行府の代表が、直接選挙をつうじて選ばれる
II. 複数政党が参加した選挙がおこなわれている
III. 選挙は、自由で不正のないもの
(選挙をつうじた権力交代/統治者は選挙の敗北を認める)

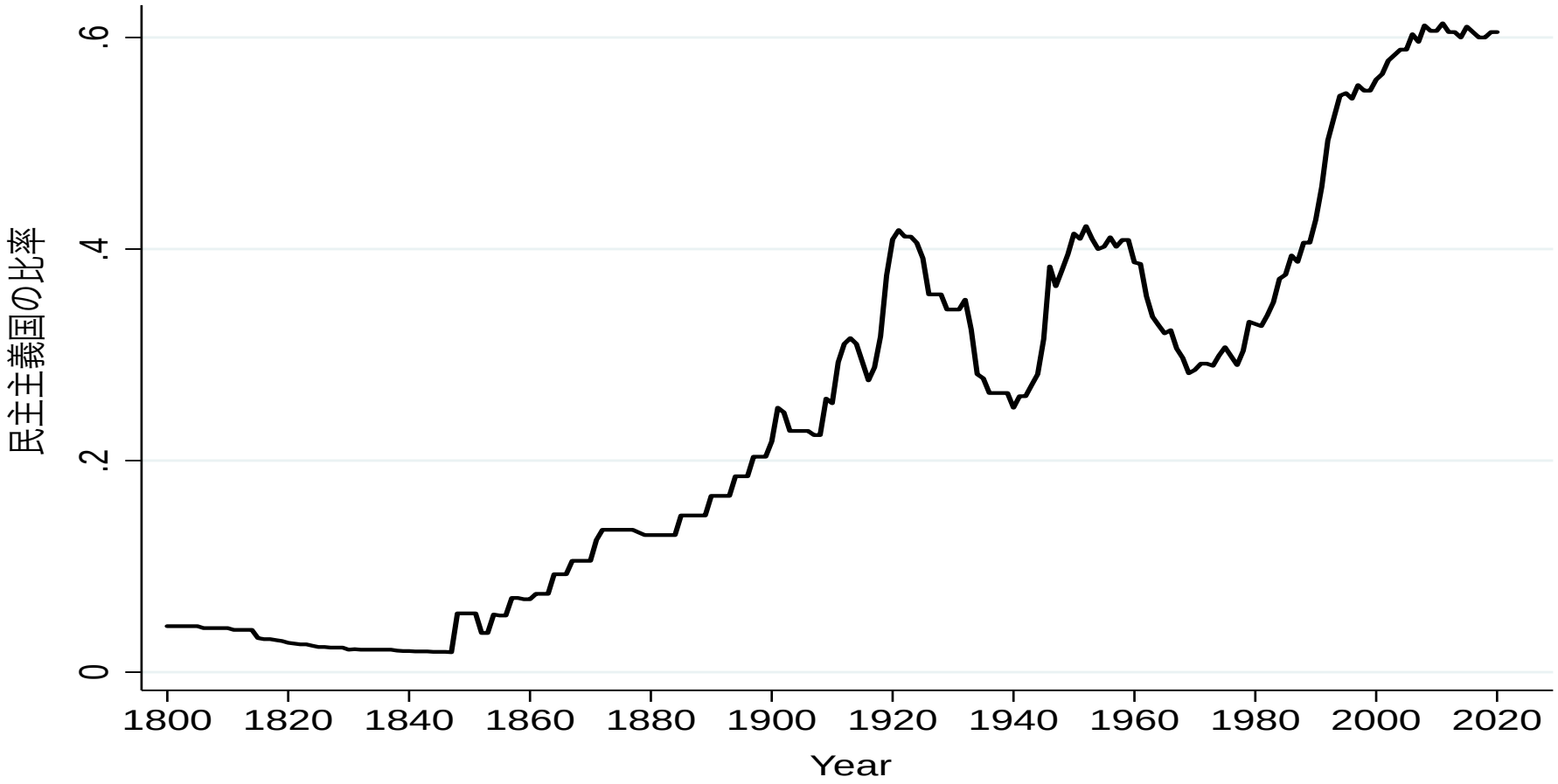
民主主義：どのように測定するか？

2. 包摂性: 政治に参加することが正式に認められている人の数

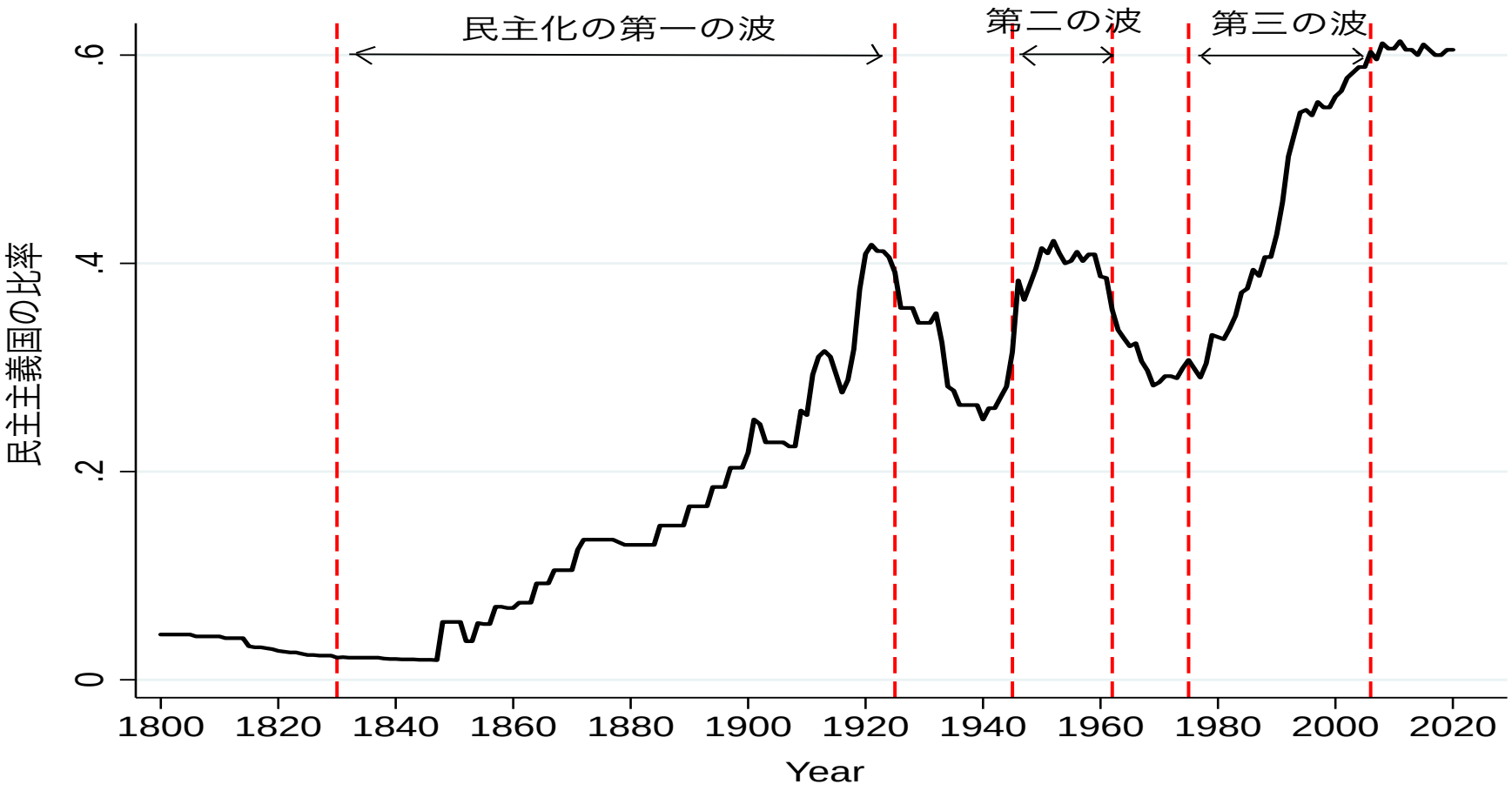
IV. 選挙権（投票権を持つ成人人口の割合): 十分な成人人口が、一定の基準などによらず参政権を認められている

4つの条件をすべて満たす場合は民主主義、そうでない場合は 、権威主義 [独裁]

民主主義体制の歴史的変遷



民主化の３つの波 (Huntington 1991)



民主化の停滞? (2006 – 現在)

👉 2000年代中頃から民主主義の比率は停滞

民主主義の比率 = (i) 民主制への移行 + (ii) 民主制の持続

(i) 2.37% (1,074国-年, 1974-2006) → 1.67% (3,071国-年, 2007-2020)

(ii) 1.22% (2,450国-年, 1974-2006) → 1.03% (1,644 国-年, 2007-2020)

👉 民主制崩壊確率はさほど変わらないが、民主化は鈍化

(i) ホンジュラス (2010), アルメニア (2018), ガンビア (2017), ニジェール (2011), ブルキナファソ (2016), ナイジェリア (2015), ザンビア (2008), ナミビア (2019), マダガスカル (2019), セーシェル (2016), チュニジア (2015), パキスタン (2015), バングラデシュ (2009), スリランカ (2015), モルディヴ (2009), ネパール (2008), タイ (2011), フィジー (2014)

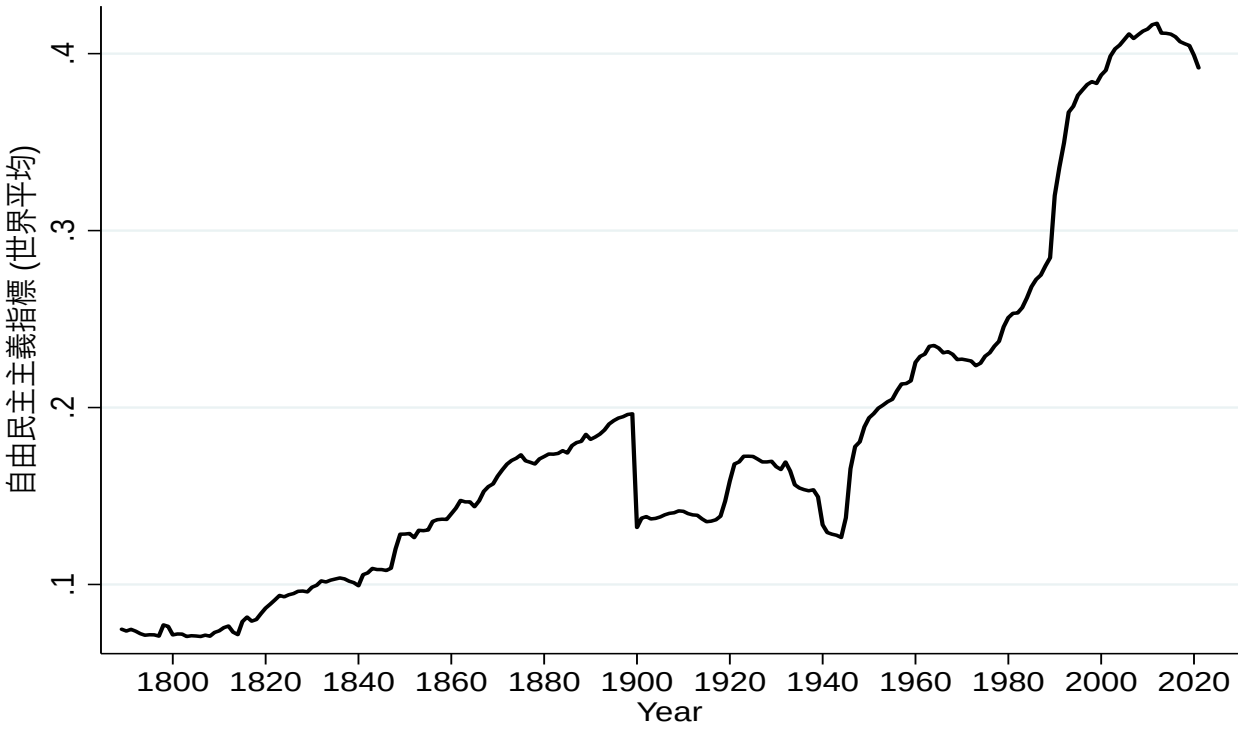
(ii) ホンジュラス (2009, 2017), ニカラグア (2016), マリ (2012), ベニン (2019), ニジェール (2016), ブルンジ (2015), マダガスカル (2009), コモロス (2018), トルコ (2016), パキスタン (2017), バングラデシュ (2007, 2014), スリランカ (2010), モルディヴ (2012), タイ (2014)

*赤字は期間内に民主制に戻った事例

👉 クーデタによる民主制への一撃というより、**リーダーが徐々に権威主義化を進める**のが特徴

V-Dem: 自由民主主義指標

- 「自由民主主義」を測定
- 選挙民主主義指標 + (i) 法の下の平等と個人の自由 + (ii) 執行府への司法の制約 + (iii) 執行府への議会の制約



「民主主義の後退」：事例 (Haggard and Kaufman 2021)

- 権威主義への移行 (民主主義の崩壊)は(まだ)ないものの、民主主義の実践が弱まっている現象

- ブラジル (2016-), ギリシャ (2017-), ハンガリー(2011-), ポーランド (2016-), アメリカ合衆国 (2016-)

- 程度/段階に差異はあれ、どの国においてもプロセスは類似
- 激しい党派対立 (政治的分極化) → 政治的停滞と既得権益の打破を謳うポピュリスト政治家の登場 → 選挙での辛勝 → 個人の権利の侵害/司法やメディアの統制 (→ 選挙不正・任期延長 [民主制の崩壊])

- **<u>漸進的な権威主義への接近・移行</u>**

権威主義体制の政治にはいかなる根本的特質があるのか？

民主主義と権威主義の政治の決定的な相違とは？

独裁政治の根本問題

抑圧と暴力は、政治エリートと市民の双方に、独裁者とその政府について本音をいわないよう促す:

独裁者の得る情報の信頼性が低くなり、情報不足に陥る可能性

しかし、自由な情報(=自由化)を許せば、独裁者の支配そのものを弱める可能性がある　＝　**独裁者の直面するジレンマ**

<u>そのため、独裁者は自分の支配を危険にさらすことなく、統治を効率化する情報を収集する必要あり</u>

権威主義体制にはいかなる多様性が存在するのか？

「幸福な家庭はどれも似たものだが、不幸な家庭はいずれもそれぞれに不幸なものである」
(トルストイ『アンナ・カレーニナ』)

権威主義の多様性: 選挙に焦点を当てて

- 発想は、権威主義 vs 民主主義の2分法と類似: 選挙中心主義的

👉 **民主主義の条件をいくつ満たしているか**で独裁制を分ける

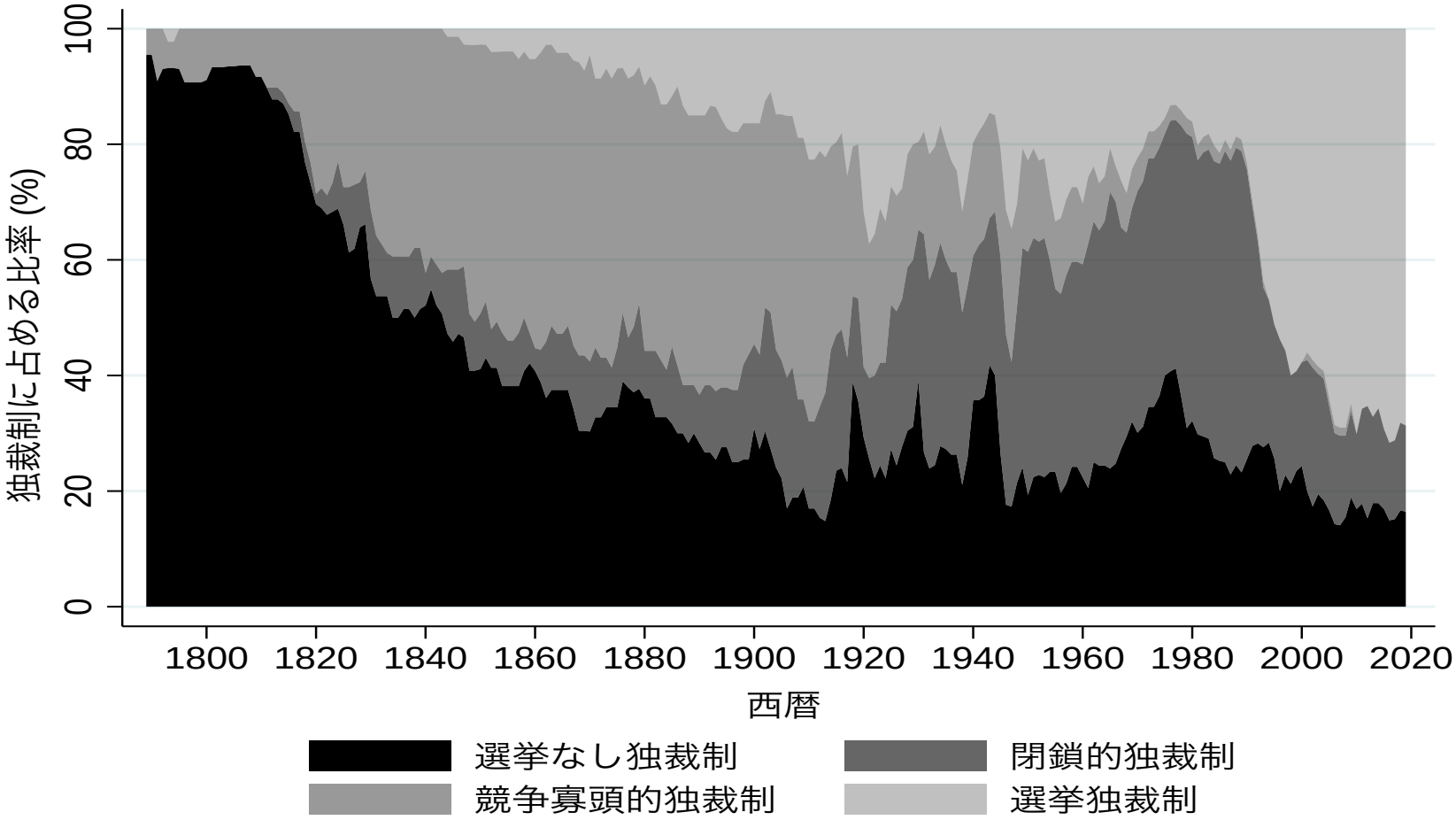
1. 選挙をしていない = 「選挙なし独裁制」

2. 選挙は定期的に実施するが、**単一政党(候補者)のみ**立候補
= 「閉鎖的独裁制」

3. 選挙に**複数政党参加**が認められているが、**選挙が公正でない**
= 「選挙独裁制」

4. 全てを満たせば、民主制 (2分法の分類と同じ)

権威主義の多様性


独裁制に占める比率 (%)
0
20
40
60
80
100
1800
1820
1840
1860
1880
1900
1920
1940
1960
1980
2000
2020
西暦
選挙なし独裁制
閉鎖的独裁制
競争寡頭的独裁制
選挙独裁制

選挙の特徴で分類した権威主義の傾向

- 「選挙なし独裁制」は**19世紀前半に**支配的。以後、急速に減少 (揺り戻しの時期に多少増)
  - 2019年現在: ソマリア、エリトリア、リビア、スーダン、南スーダン、サウジアラビア、イエメン、カタール、アラブ首長国連邦、中国、ブルネイのみ

- 「閉鎖的独裁制」は**冷戦期に**急増 (共産党一党独裁)。冷戦後、急速に衰退
  - 2019年現在: キューバ、ベネズエラ、スワジランド、シリア、オマーン、トルクメニスタン、北朝鮮、カンボジア、ラオス、ベトナム
    *赤字は社会主義/共産主義にルーツのある体制

選挙の特徴で分類した権威主義の傾向

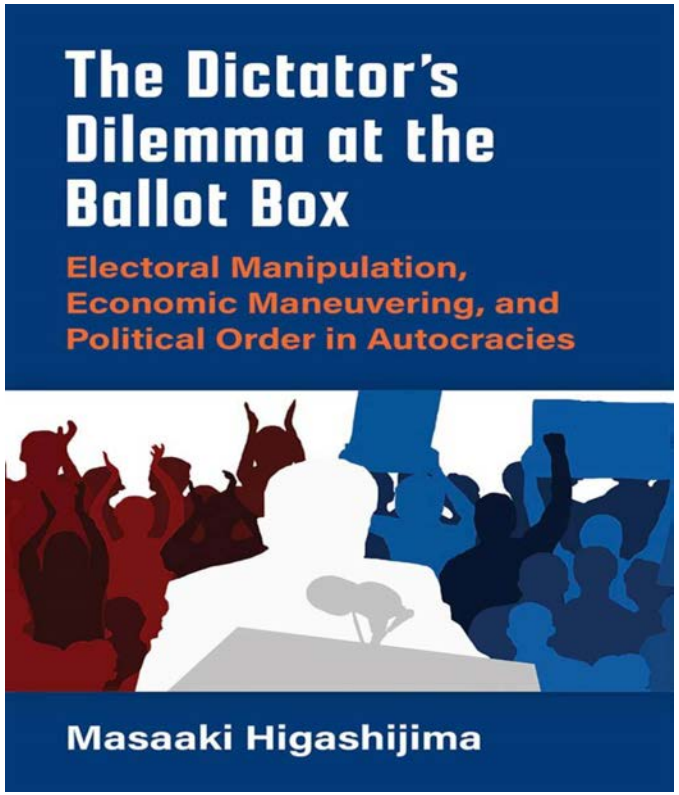
👉 「選挙独裁制」は**19世紀後半から1920-30年代のファシズム・共産主義の台頭まで**支配的。**冷戦後に**再び急増。

- 2019年現在 (一部): ボリビア、ニカラグア、ロシア、ベラルーシ、ニジェール、トーゴ、カメルーン、タンザニア、エチオピア、ジンバブエ、モロッコ、イラン、トルコ、エジプト、クウェート、アフガニスタン、カザフスタン、パキスタン、シンガポール、など

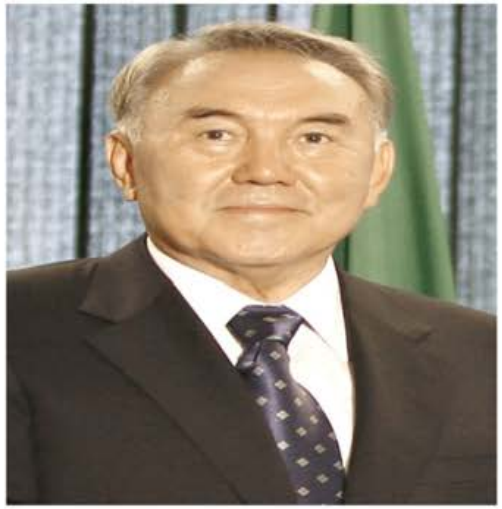
現代の独裁制の特徴

- そのほとんどが定期的に選挙を実施している
- しかも、大多数が野党の選挙参加をわざわざ許している
- つまり、代議制民主主義の「代名詞」ともいうべき「複数政党選挙」をおこなっている
- こうした「民主主義を装う権威主義」をいかに理解すべきか

独裁者によって選挙はどのようにデザインされるか？
選挙は独裁制の安定性にいかなる影響を及ぼすのか？



中央アジアの２人の独裁者



President Nazarbaev of Kazakhstan

President Akaev of Kyrgyzstan

独立後：数多くの類似点 – 歴史、多民族社会、急進的経済改革、権威主義化、強い大統領権力、地方分権的傾向、強力なクライアンテリズム、国際環境

２０００年代半ばまで：対照的な体制分岐
KZ: 操作の少ない選挙で体制強化、KG: 操作の多い選挙で体制崩壊

選挙独裁制で実施される様々な選挙

Gen. Efraín Ríos Montt, center, announcing the formation of a junta in 1982.

Post-electoral coup in the 1982 Guatemalan elections

Overwhelming Victory of Golkar in the 1987 Indonesian Elections

"Orange Revolution" after the 2004 Ukrainian Elections

Extensive Electoral Fraud in Mugabe's Zimbabwe in the late 2000s

『民主主義を装う権威主義』が明らかにしようとしていること

- **権威主義体制の選挙はどのように設計されるのか？**
  1. いかなる条件で選挙不正を多用するか
  2. いつ選挙制度を変更するか
  3. いかなる条件のもとで経済政策の操作をおこなうか

- **権威主義体制の選挙はいつ政治秩序を脅かすのか？**
  1. いかなる条件でクーデタや野党の選挙勝利が起こるか
  2. いつ選挙後の抗議運動が起こるか

- **実証のツール**
  1. WWII後の独裁制の多国間統計分析
  2. 中央アジア２カ国の比較事例研究

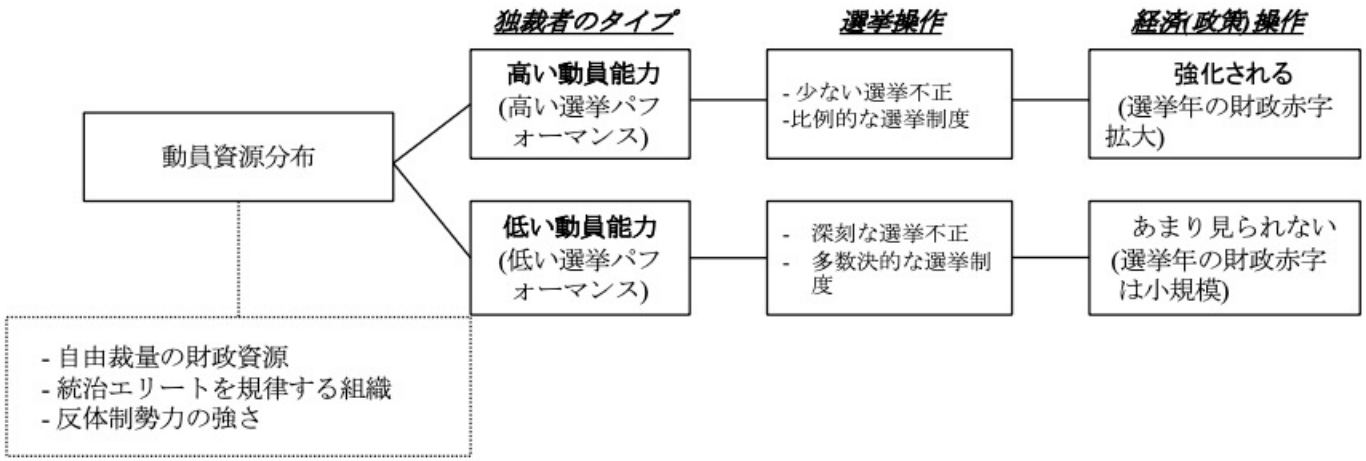
独裁制の「選挙のジレンマ」

	情報効果	圧倒的勝利の確率
部分的に自由な選挙	Yes	No
極端に操作された選挙	No	Yes

- 「権威主義支配の根本問題」
- 選挙はこの問題の緩和に役立つ
- しかし、独裁者は選挙設計にあたりジレンマに直面

3つの実証上の含意

1. 資源と組織を通じて大衆の支持を動員できる独裁者は選挙操作を手控える
2. 操作の少ない選挙では、選挙前の経済分配が強化される
3. 独裁者が自分の動員能力と選挙操作の水準を見誤ると、選挙後に政治秩序が混乱する

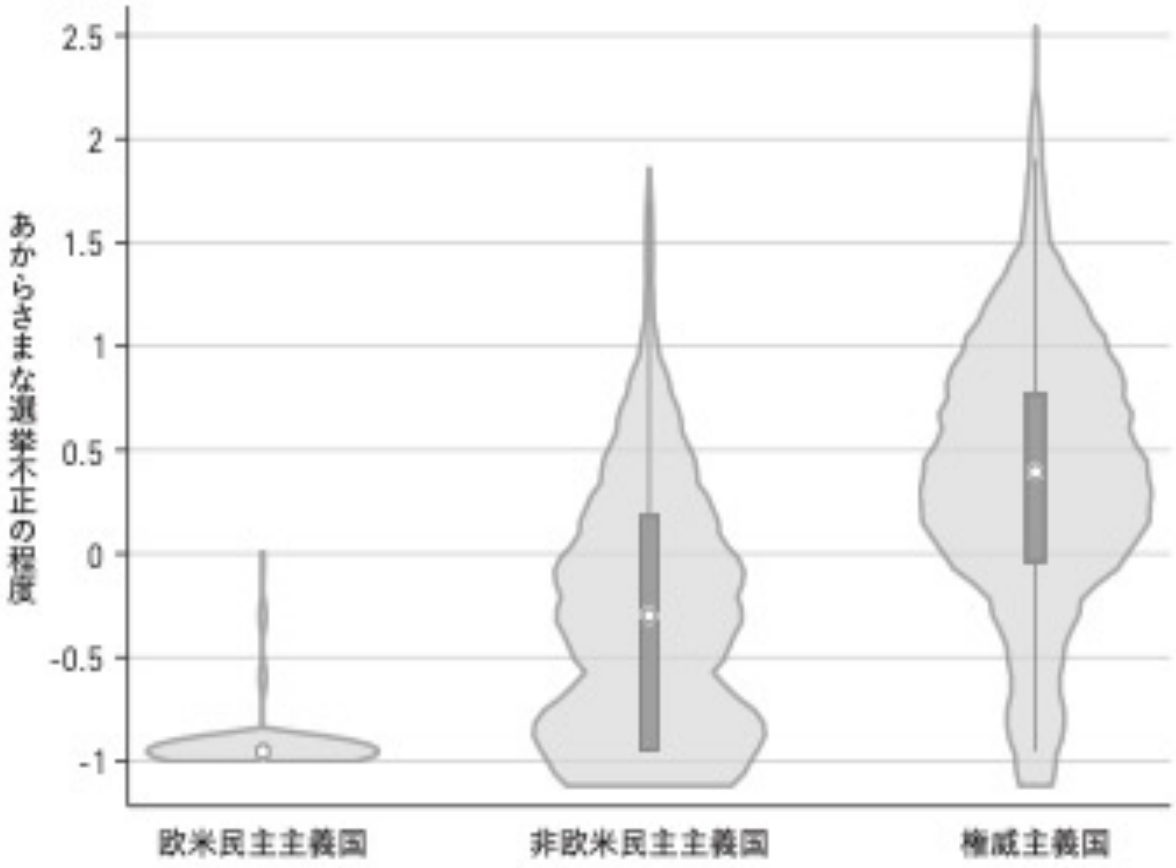


選挙不正

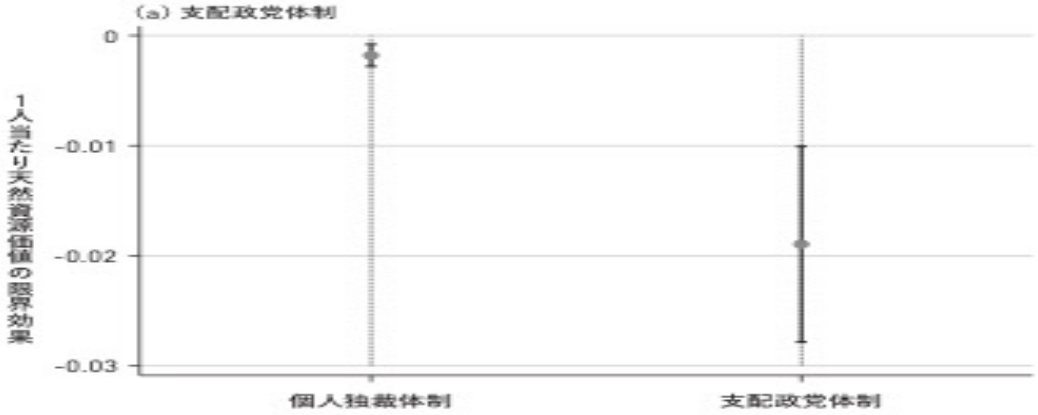
- 現職に有利なように選挙過程を歪める一連の非民主的な不法行為（Donno 2013：53）

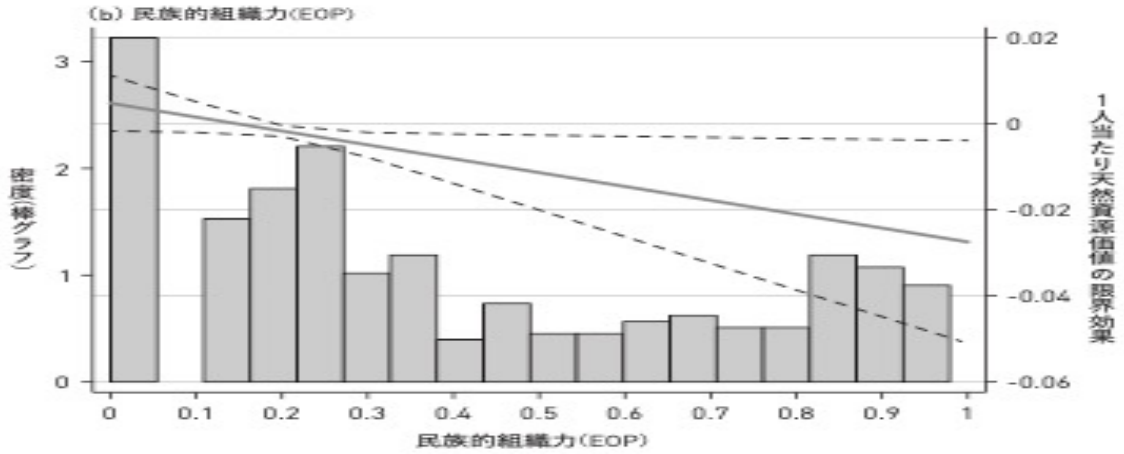
運動・表現・結社の自由への制約	現職に有利なよう歪められた選挙戦	投票所での(あからさまな)不正
- 野党の選挙登録の妨害・抹消 - 野党・野党候補者・野党支持者への嫌がらせ (選挙暴力、特定の候補者を支持するよう圧力) - 野党の選挙キャンペーン活動への制約	- メディアが選挙キャンペーンを報道する権限や能力に対する制約 - メディア報道やメディアへのアクセスに対する与党の圧倒的優位 - 現職と与党の選挙キャンペーンのために国家資源を流用	- 選挙日の有権者への嫌がらせ (暴力・非暴力) - 選挙登録からの有権者の恣意的抹消 - 秘密投票の侵害 - 多重投票 - 表の水増し - 票の廃棄や書き換え - 書き換えられた選挙結果の発表

選挙不正の国際比較: 独裁制でも不正の程度に違いがある！

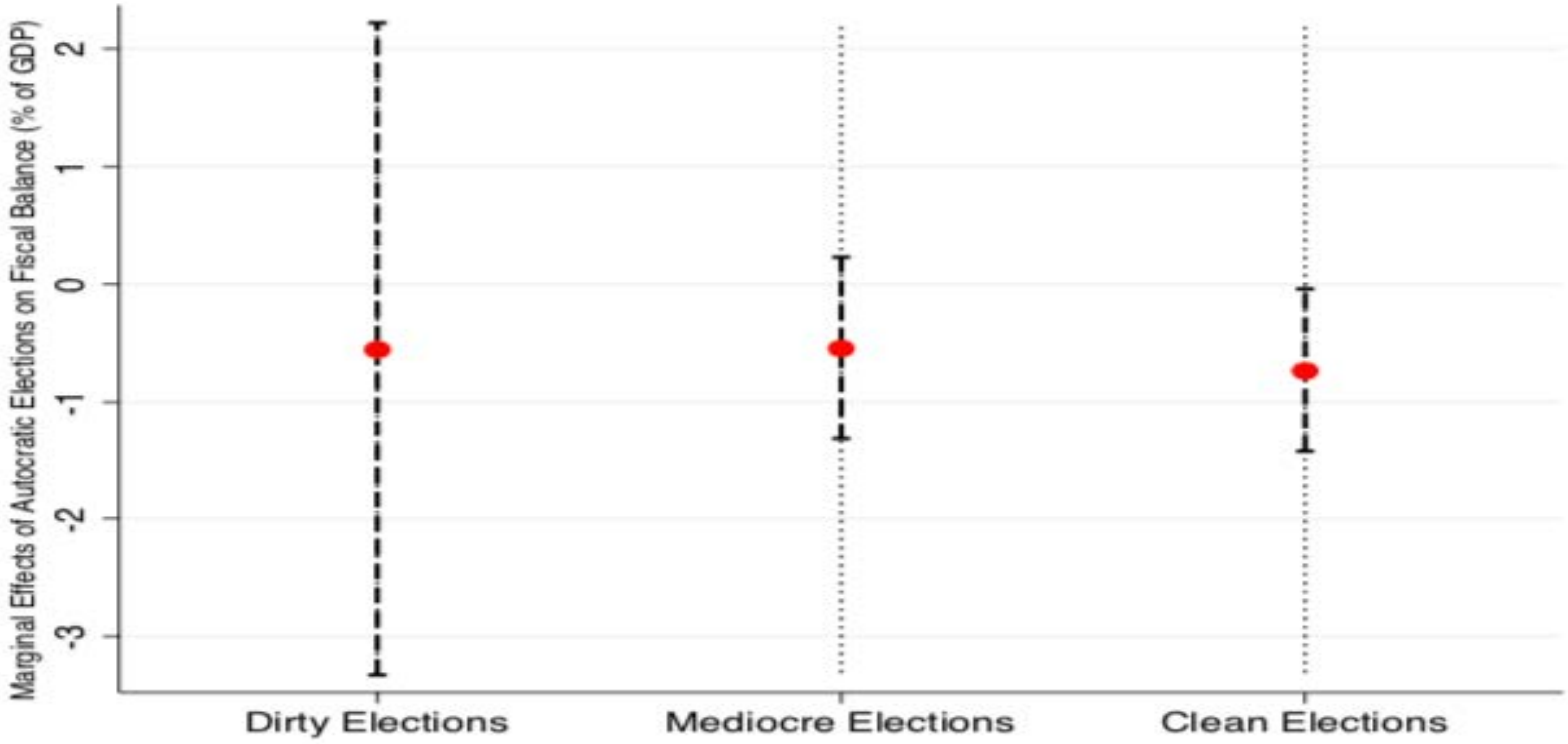


資源を効率的に分配できる独裁制は選挙不正を抑制 (支配政党や民族ネットワーク）





不正の少ない選挙は選挙年の財政赤字と正の相関

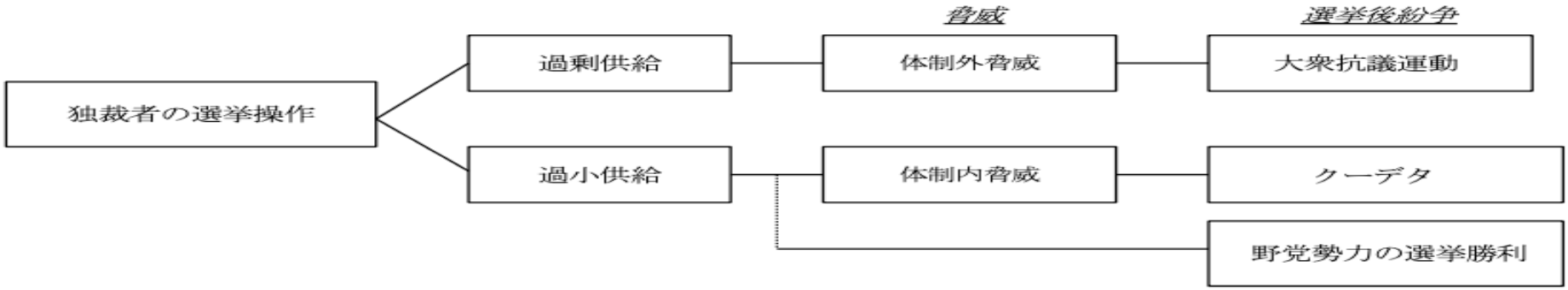


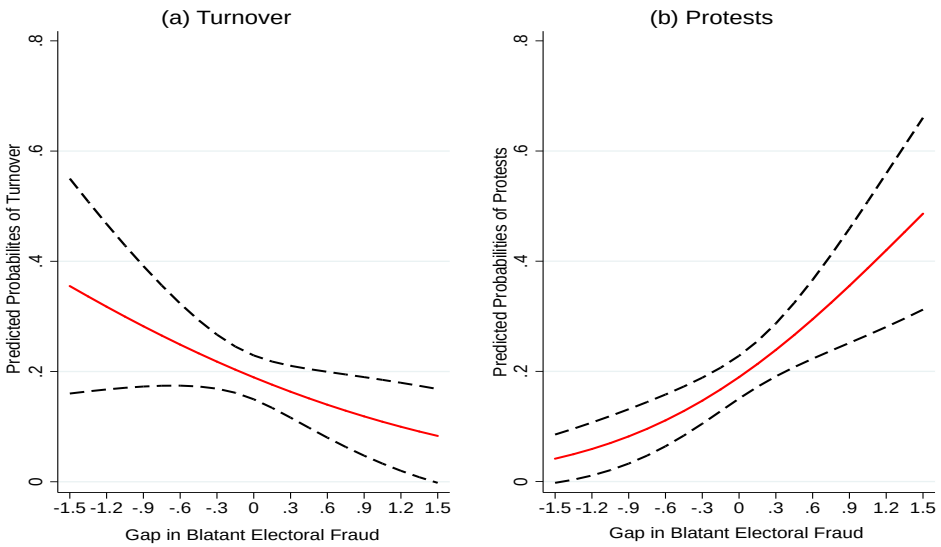
独裁制における選挙後騒乱 (1960-2009)

表7.1　選挙後の抗議運動と指導者交代

	1960-1969	1970-1979	1980-1989	1990-1999	2000-2009
独裁選挙の総数	188	218	228	279	236
選挙後の抗議運動発生数 （独裁選挙に占める割合）	31 （16.4%）	39 （17.88%）	46 （20.1%）	49 （17.56%）	66 （27.96%）
具体的事例	ハイチ （1961）	ベニン （1970）	エジプト （1987）	アルバニア （1991）	ペルー 〔2000〕
	イラン （1961）	ブルキナファソ （1978）	メキシコ （1988）	ガーナ （1992）	グルジア （ジョージア） 〔2003〕
	マレーシア （1969）	カンボジア （1972）	フィリピン （1986）	インドネシア （1997）	ジンバブエ 〔2002〕
	ルワンダ （1965）	エルサルバドル （1978）	セネガル （1988）	ケニア （1997）	イラン 〔2009〕
	韓国 （1967）	南アフリカ （1970）	台湾 （1989）	ジンバブエ （1995）	セルビア 〔2000〕
選挙後の指導者交代 （独裁選挙に占める割合）	11 （5.85%）	15 （6.68%）	17 （7.45%）	26 （9.31%）	14 （5.93%）
具体的事例	ペルー （1962）	エクアドル （1979）	パキスタン （1988）	アルジェリア （1991）	セネガル 〔2000〕
	アルゼンチン （1962）	ボリビア （1978）	ポーランド （1989）	ギニア・ビサウ （1999）	ケニア 〔2002〕
	ラオス （1960）	ドミニカ共和国 （1978）	チリ （1989）	ブルンジ （1993）	メキシコ 〔2000〕

選挙のジレンマへの対処の失敗：抗議運動と指導者交代





比較事例研究

カザフスタン (KZ) のナザルバエフ体制

vs

クルグズスタン (KG) のアカエフ体制

1. 選挙手法の違い
2. 選挙後の体制安定度の違い

President Nazarbaev of Kazakhstan

President Akaev of Kyrgyzstan

ナザルバエフの動員能力の強靭化

- 財政資源: 天然資源の増大と集権的管理の確立
- 規律組織: 中央集権化と支配政党の制度化
- 選挙操作 (不正・比例代表制への移行) を抑えても選挙に圧勝
  → 選挙をつうじた体制の堅固化

アカエフの動員能力の弱体化

- 財政資源: 天然資源と外国援助の縮小
- 規律組織: 権力構造の分権化と支配政党の確立失敗
- 過度の選挙操作 (不正・小選挙区制への移行) による選挙での勝利 → 選挙による体制の弱体化と崩壊

変貌する権威主義

- 現代の独裁体制：暴力や抑圧を進んで行使するというより、それらは「最後の手段」⇔ 歴史上の独裁制（恐怖に基づく権力の誇示）

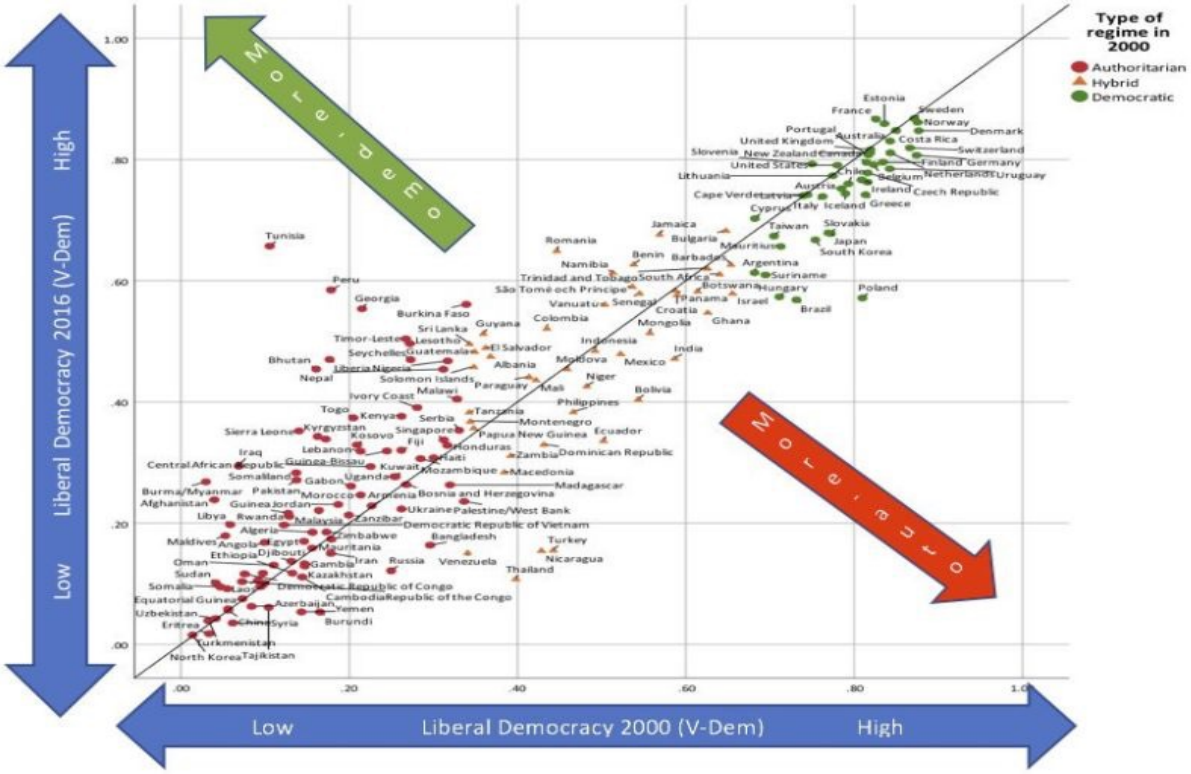
- 経済分配や選挙ルールの改変など目につかない巧妙なやり方で政権を維持 → 民主主義の指導者との類似性

- 他方、「民主主義の後退」によって、民主主義を支える選挙の公正さや種々の政治制度が毀損されつつある

「民主主義化」する権威主義、「権威主義化」する民主主義

(https://www.demdigest.org/the-payback-playbook-a-strategic-plan-to-fight-democratic-backsliding/)

Figure 4: Changes in democracy and authoritarianism 2000-2016, V-Dem (draft)



Note: The direction of net change is defined by net change in the standardized Variety of Democracies score from 2000-2017 (ultimately 2020). The type of regime is defined by the standardized Variety of Democracies 100-point Liberal Democracy score. To be updated in April 2017 with the release of V-Dem 8.0. **Source**: Varieties of Democracy V7.1. https://www.v-dem.net/en/

「権威主義の変貌」の背景

- Guriev and Treisman (2022), *Spin Dictators: The Changing Face of Tyranny in the 21st Century*, Princeton University Press

- "The Modernization Cocktail"

- ポスト産業社会への移行、経済・情報のグローバリゼーション、リベラルな世界秩序の混合(The Modernization Cocktail)が、民主化ではなく独裁者の「民主主義」への「適応」をもたらした

- 「権威主義 vs 民主主義」は両体制の統治の特徴を把握するには不十分

最後に

- 「極端な独裁」と「高度な民主主義」が少なくなり、グレーゾーンのボリュームが増えている

- リベラルな国際制約が独裁者を民主主義者に装わせているとすれば、それが弱まること (=民主主義国の民主主義が脆弱化すること)は、独裁者は本来の姿に戻ることを意味するかもしれない

- 先進国を中心とした民主主義のあり方は、権威主義国の統治のあり方にも多大な影響を及ぼす

- 民主主義と権威主義は、お互いが一揃えの合わせ鏡